第34回 日本銅センター賞受賞

銅の細胞をもつ生物たちが住まう世界

銅造形作家 coppers（カッパーズ）早川

何枚もの銅を叩き出し、張り合わせ、磨き、染め上げる…その手法は、すべて独学。猫やゾウ、魚といった生物をモチーフにした作品もあれば、飛行船や船といった機械類、さらに抽象的なものまで、coppers早川ワールドは果てしなく広がっていく。どこか温かみがあり懐かしい。モダンかつレトロな独自の世界観は、年齢を超え、多くの人々の心を魅了してやまない。

profile coppers早川は、息子・早川篤史氏（写真）と、父・早川克己氏による親子ユニット。2002年より銅作品の制作を開始。以来、公募展、個展、イベントなどで活躍。2004年にTV「たけしの誰でもピカソ」出演。2005年「愛・地球博」では、押井守監督の依頼により作品を制作・展示した。
http://www.coppers-hayakawa.com

「親子ユニット」というスタイルで創作活動を続けるcoppers早川。世の父親たちには、うらやましく思う方もいるだろう。父の影響などはあったのだろうか。「影響を受けたものは、本当に色々で、それこそ幼少の頃から見聞きしてきた映画、本、アニメ、ファッション、音楽など、すべてではないかと思います。また、育ってきた環境の力も大きいですね。田舎育ちの私は、動物に触れる機会も多かった。そして、父が機械設計士だったので、機械を見る機会も多く、それらの影響も大いにあると思います」。機械と動物が同じように身近な存在だったというのはうなずける。機械をモチーフにした作品にまで、力強い命の息づかいが感じとれるからだ。それにしても、銅の素材特性を巧妙に活かした緻密な造形美には、ただ見とれるばかり。イメージづくりや設計などには、どれだけ時間を費やしているのだろう。「特にそのための時間を取りません。夜、本を眺めている時や制作中などに、ふと閃いたり、という感じです。制作に当たっては、ラフスケッチを描いたりすることもありますが、設計図的なものは、全く何も描かずに始めることも多いです。作っていると、手が勝手に作っていくというような感覚です」。ここが凡人との違いだろうか。では今後の目標は？「二〇〇七年より、本格的に東京での個展などが始まりましたが、全国の方々にも、ぜひ実物をご覧になって頂きたいですね。そして、ゆくゆくは海外進出も果たしたい。また、映画やアニメーションなどで、自分の作品が動き回る世界も見てみたいとも思います。まだまだ夢の実現には、程遠いですが、一歩ずつ前進していきたいですね」。その夢の実現に、銅が一役買えるのなら、うれしい限りである。

Ｓｏｒａ

はるかなる“空”への想いは、この銅の世界でも同じようだ。飛べない鳥人は、いま、翼を手に入れて、飛び立つ。

南の森のオサ

南の森には、威厳ある誇り高き“南の森のオサ”がいる。彼は、答えを教えてはくれないが、その言葉はきっと人生の道しるべとなるだろう。

イノブタ

見上げる空、彼は、その先に何を見るのだろうか？

エクレア号 Jr.

この世界の技術の粋を集めて建造されたといわれる巨大な飛行船エクレア号より、やや小型のこの船、とにかく速いのが特徴だろう。

飛思 Jr.

機械なのに自身で飛びたいと思ってしまったエンジン。いまのところ、何かに搭載される予定は立っていないようだが、その思いが消えることはない。

ドブロ

壁面をあでやかに飾るドブロ。

★使用する銅板／サイズ：365×1,212mm、厚さ：0.3～4.0mm